

【東郷湖・未来創造会議】

第1回観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム会議 会議録

日 時 平成23年9月20日(火) 午後1時30分～3時30分

場 所 湯梨浜町役場 2階第3会議室

1. 出席者

委員) 山口 博、久重 祐彦、宮川 紳、足立 哲治、杉山 佳奈、朝倉 幸子
松岡 恭弘、山口 康介、大庭 富久男、谷口 和幸
事務局) 中本 賢二、山田 志伸、林 紀明

2. チーム長、副チーム長の選出について

◆欠席者もあり、次回ワーキングチーム会議で決定する。

3. 説明事項

ワーキングチーム会議の進め方について、以下の通り説明する。(概略/事務局：林)

◆会議の時間は、2時間を目安とする。

◆ワークショップ形式(第1回未来創造会議と同様の手法)

□4～5人に分かれてグループ討議を行う。(2グループ)

(プロジェクトの重要な一員であるという主体的なイメージを共有する。)

□提言、アイデアをポストイットに記入し、模造紙に貼る。

□お互いに発表し合いながら情報の共有を図る。

□最終的な取りまとめを行う。

□グループごとに発表者を選定し、議論の成果を発表する。

◆東郷湖SWOT分析結果

□分析結果を模造紙大に拡大し、会議会場に貼り出す。

(左上：強み/右上：強みの発展/左下：弱み/右下：弱みの克服)

□①東郷湖の強み分析、②東郷湖の弱み分析、③弱みを克服する対策、④強みをさらに発展させる対策について振り返りを行う。(資料配布)

□分析結果は絶対的なものではない。議論が混迷した時に立ち返るため。

◆重点的に取り組むプロジェクトの視点(資料配布：詳細別紙参照)

□福井氏の「会議総括(中核となるプロジェクトの方向性)」をたたき台に議論を展開する。具体的なプロジェクトの検討、魅力づくりに取り組む。

□観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム

①温泉資源の戦略的活用

②地産地消システムの構築

③その他

◆留意点

□第2回会議までのスケジュール

◇ワーキングチーム会議提案取りまとめ：平成23年10月14日（金）

※議論の進捗により、随時ワーキングチーム会議を開催していただくよう要請。

◇全体集約：平成23年10月17日（月）までに整理、集約

◇協議：平成23年10月24日（月）までに福井氏と第2回会議の打ち合わせ。

◇第2回未来創造会議（中間総括）：平成23年10月28日（金）13：30～

□現段階では、財源のことは考えず、自由な発想を大事にする。

□最終的（中間総括）には、「事業名」と「事業内容」を整理する。

□第2回会議は、ワーキングチームごとに具体的なプロジェクトの発表の場とする。同時に、「町長の夢」も含めた形で、この「東郷湖・未来創造会議」の到達目標（ゴール）についての議論を行う。

4. ワーキングチーム会議

（事務局：林）

それでは、これから一時間、福井さんからお示しいただいた二つの柱について、どういうことが具体的にできるかということを考えていただきたいと思います。財源の部分があるののでできないという、その部分が足かせになるということではなくて、こういうような発想、こういうアイデアでこういうことをやったらどうだということをお示しを今日、皆さんでご検討いただけたらと思います。冒頭申し上げましたように、模造紙、ポストイットを準備しておりますので、一つ目の柱については何ができる、二つ目の柱については何ができる、それ以外の部分で何ができるという具合に、一応三つの区分けをしていただいて、ポストイットを貼っていきながら、取りまとめの方をお願いできればと思います。事務局として一応のご説明させていただいて、この後はグループでご検討いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

（事務局：中本企画課長）

それでは、林の方から説明させていただきましたが、二本の柱とその他の柱ということで、グループごとに議論の作業に入っていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（事務局：林）

今までのところで何かご質問等がありますでしょうか。（特になし）

それでは、前回の会議を踏まえて、この柱の中で何ができるかということをお話し合っていたらと思います。ちなみに、15日にありましたイベント・コンテンツ開発チームでは、最終的な取りまとめというところまでは至ってはおりませんが、どんどんポストイットを貼っていきながら、多くの意見を出していただきました。皆さんでこういうことができるということをお話し合っていたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

～ ワーキングチーム会議 ～



グループ討議の様子／観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム

5. グループ討議の結果発表

※「温泉資源の戦略的活用」「地産地消システムの構築」「その他」の柱で整理、集約する。

[□：アイデア、提言／■：指摘事項など]

【温泉資源の戦略的活用】

<特色ある旅館づくり関係>

〔充実プラン〕

- 客のニーズに基づいた食事の選択制度
- サービスの選択制度（フルサービス or ノーサービス）
- エステプランの設定（健康・女性を視点）
- 周遊プランの設定
- 温泉宿泊者へのプレゼント企画
 - ◇町産果物の加工品プレゼント（ジュース、ソフトクリーム、ケーキなど）
- 旅館のお茶請けに地物を活用
- 料理をテーマごとに設定
 - ◇いくつかの旅館が同じテーマで料理を提供（キーワード：健康／天女など）
- 旅館の各部屋に内風呂（個人／家族対応）

<イメージ創造関係>

〔はわい温泉、東郷温泉を統括するイメージづくり〕

- 「縁結び」「パワースポット」をキーワードに設定
 - ◇色々なものをハート型にする（幸せ感の醸成）
 - ◇ハート型のモニュメントを作製（記念撮影ポイント）
 - ◇紹介パンフレットの作成
- 「子宝の湯」をキーワードに設定
 - ◇伯耆一ノ宮／下照姫命（子宝の神様）－他の温泉地との差別化
- 温泉を統一するイメージとして「天女」をキーワードに設定
 - ◇現在ある地域資源を天女に結び付ける
 - ◇女性が天女気分になれる仕組みづくり
 - ◇PRにはすべて天女を使う
 - ◇天女にちなんだイベントの開催
 - ◇天女にちなんだ土産物、スイーツの開発
 - ◇燕趙園コスチュームで天女の羽衣
- 土産品などにおみくじ的な楽しさを演出
- 「湯船」の復活
 - ◇湖底から湧く温泉の特色を活かす
 - ◇湖上露天風呂のイメージ

- 「温泉の素」の作製
 - ◇南国ハワイ、子宝などをキーワード

- 地熱発電施設の検討

【健康的な温泉のイメージづくり】

- ウオーキングのまちづくり
 - ◇インストラクターの養成
 - ◇どこの旅館、宿泊施設に泊まってもインストラクターの指導が受けられる
- 宿泊者に体育施設を優先提供（特典）
 - ◇優先的に先行予約
 - ◇安価な料金設定
 - ◇合宿プランの設定
- 人間ドックと温泉宿泊のパッケージ

【ヘルシーなイメージづくり】

- 「肌がツルツルになる」「美容にいい」をキーワードに設定
 - ◇「肌にいい」「美容にいい」食材を使った料理の提供
- 年配の方向けのプランの造成
 - ◇アンチエイジング料理月間の設定
 - ◇精進料理月間の設定

<足湯関係>

【温泉への親しみ、気軽さを演出】

- 風情のある足湯の設置（木のぬくもりなど）
- 付帯サービスの充実
 - ◇タオルの自動販売機
- グッズの製作（タオルなど）
 - ◇町内産のものを活用して染色<地産地消>
 - ◇訪れやすい環境整備
- 足湯プラスワン（温泉たまごなど）
- 安心感の創出
 - ◇汚いイメージ（病気がうつった／水虫がうつったなど）の払拭
 - ◇安全・安心のための表示の掲出（「検査に合格」など）
 - ◇熱くて入れないことがあるので、自由に温度調節できる機能装置
- 足湯のつながりを持たせる仕組みづくり
 - ◇町内に6箇所の足湯（はわい温泉地内4箇所／東郷温泉地内2箇所）
- 足湯に関する設備の充実（壁／案内）

<温泉関係>

- 温泉の活用
 - ◇発電、エステ、料理

◇温泉熱を利用した野菜などの栽培<地産地消>



グループで議論した結果を発表

【地産地消システムの構築】

<新商品の開発関係>

- 珍しいスイーツの開発
 - ◇地元の農産物を活用
 - ◇商品コンテストの開催
 - (例) 野花豊後を使った季節限定のスイーツ
 - 題材を決めた(ジャム/ソフトクリームなど)商品コンテスト
 - ◇プロジェクト項目に合致する取り組みへの補助制度を創設
- 素材を活かしたアイスクリームの開発
- 観光客が体験できる商品づくり
 - (例) ミニ畳づくりなど
- 「見て楽しい」をコンセプトにした土産、菓子の開発
 - ◇女性をターゲットにミニチュア的かわいさを演出
- 土産品の付加価値造成
 - ◇オマケ、おみくじ付き
- 土産品の入れ物を工夫
 - ◇町内産の材料を活用

□工芸品の作製

◇町内産の材料を活用した染物、焼き物

＜ヘルシーメニュー関係＞

□健康志向の追及

◇「野菜たっぷり」「昆布だしで油控えめ」健康志向を前面に打ち出したメニューづくり
(コテコテの牛骨、トンコツもいいが・・・)

◇健康的弁当(ヘルシー弁当)づくり(コンビニ弁当との差別化)

□「何歳若返る」「美しくなる」をキャッチフレーズに設定(ヘルシーさを演出)

■「地元の食材を使って」ではインパクトが弱い

■おいしさはあたりまえ!

＜選べるバリエーション関係＞

[商品のコンセプト]

□色々な施設でバラエティ豊かに販売

◇そこに行かないと買えない仕組みづくり

(例:施設間で連携したソフトクリームラリーなど)

◇全部食べないと気が済まない気持ちにさせる仕組みづくり

□季節限定商品の開発、販売

◇一年中販売しないで、季節ごとにリレー

(例:季節限定ソフトクリーム 春は〇〇味、夏は〇〇味・・・地物の活用)

□ジャム+ソフトクリーム(付加価値の造成)

◇すぐに消費できる仕組みづくり

□足湯につかりながら食べることを前提とした特色あるスイーツの開発

□小さいサイズの菓子、スイーツの開発

◇食べくらべの楽しさを演出(一つではなく三つ、四つ食べられるサイズ)

◇ケーキ、プリン、ゼリー、パン、ソフトクリームなど

□商品の選択肢を増やす

◇多くの種類を作り、選ぶ楽しさを演出(コンセプト)

(例:蒜山のハチミツ 花の種類により何十種類のハチミツを販売)

□小売りスタンドの開発

◇手軽なサービスシステムの構築

＜販路開拓関係＞

□地域通貨で地産地消できる仕組みづくり

◇物々交換できる仕組み

■本物の通貨よりお得感がないと定着しない

＜その他＞

□地産地消を促しながら景色を楽しむ仕組みづくり

◇カニバス(冬季誘客イベント)、合宿客、自動車学校生徒などの取り込み

◇他との差別化を通じてリピーターの増加を図る

□システムの事業化、仕組みづくり

◇①そこで食べる ②買ってそこで食べる ③土産として買う・・・

想定する場面を分けて事業化

【その他】

□天女風の作製

□貸自転車の充実

□貸自転車の広告費



グループで議論した結果を発表

(事務局：林)

ありがとうございました。今、それぞれ発表していただきましたけれども、何かお互いのチームでご質問などはありませんか。

ちなみに、前回のイベント・コンテンツ開発チーム会議の中でも、この分野に関連すると思われるご意見も出ておりました。若干紹介させていただきますと、土産品の開発というところで、文化財の部分との協調というイメージだったと思いますけれども、例えば藩倉の模型を作ったらどうかとか、藩倉の瓦せんべいを作ったらどうかとか、もう一つは、銅経筒のモナカを作って、そのアンに野花豊後だとか、二十世紀梨などの地元でとれるものを使って販売したらどうかというご意見がありました。また、泊漁港の活用ということで、地元産の海産物が手軽に買えるような整備をしたらどうかということもありました。それから、シジ

ミが特産品ということもありますので、ここに来ないと食べられないシジミ料理の開発をしたらどうかというご意見もありましたし、東郷湖のフナをもっとブランド化して宣伝したらどうかということもありました。もう一つ面白いなと思ったのは、シジミたまごということで、ニワトリにシジミの殻を食べさせて、地元で獲れたシジミを餌にして、ニワトリが産んだたまごを何らかのキャッチフレーズで売り出したらどうかというご意見もありました。それぞれのチームで、それぞれのチームの殻にとらわれないような形で意見集約をしておりますので、今日のこのチームで出てきた意見を私の方で一回まとめさせていただいて、また皆さんの方にお返しさせていただきたいと思っております。冒頭お話しさせていただいたんですが、第2回会議を開催する10月28日には、一応このチームとしてこういう事業を提案しますという形までもっていきたいと思っています。ですから、28日の会議までに、おおよそこのようにまとめてはいただいているんですけども、例えば似たようなアイデアはできる限り寄せていく、ある程度一つのジャンルにまとめていくという作業がまず必要だということ、それから、今日の段階では特に財源のことは考えなくてもいいですと、自由な発想でご意見をくださいとお話しさせていただきましたけれども、それをやることで誰が利益を受けるのか、町民なのか、県民なのか、或いは観光客なのか、両方なのかという整理も必要になってくると思っております。また、最終的にはまとめていく事業にネーミングを付けていくという整理も必要になってくると思っております。今日は第一段階ということで、色々と皆さんの方からご意見をいただきましたので、それを私の方でまとめさせていただいて、その上でもう一回お集まりいただいて、もう少し具体的に、コンパクトにこういう事業というところまで詰めるような作業をお願いしたいと思っております。

皆さんがお忙しい中、何回もという格好になってしまうんですが、出てきた提案すべてという訳にはいきませんが、提案があったことについては、来年なのか、再来年なのか、もう少し長期的にみるのか、何とか実現に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いします。

その他、以下のことについて説明する。

□全国都市緑化フェアが2013年に鳥取県で開催されること。

□天女サミットの開催事例。

28日の会議の時には、天女ということも含めて、この未来創造会議の大枠としてどのような方向性で進めていくかという議論も一つのテーマにさせていただきたいと思っておりますので、チームとしてはその各論部分を少しずつ深化させるといいますか、具体化しながら、会議で提案するという形でお願いできたらと思っております。

イベント・コンテンツ開発チームについても、同様の作業をしていただくことにしています。9月30日に第2回チーム会議を設定していただきました。今日、欠席者の方もおりますけれども、いらっしゃる皆さんのご都合を確認させていただいて、次回の会議の日程を決めていただければありがたいと思っております。色々と話をしていると、どちらかというところ他のチームから出てくるご意見というのは、この観光・物産の活性化チームにつながってくるものが非常に多くて、皆さんにご負担をかける部分もあるかもしれませんが、ご協力

をよろしく申し上げます。今日のまとめについては、遅くとも来週の始めには皆さんにお送りできるように集約をいたします。申しあげましたように、10月14日を取りまとめの期限としておりますので、次の会議でまとめれば結構ですし、もう一回というケースがあるとなれば、なるべく期限に近づかないようなところで決めていただければと思います。

<次回会議日程>

平成23年10月4日（火）午後1時30分～

会議録と合わせてご案内させていただきますので、次回はもう少し深化させるような作業をお願いできればと思います。

足元がたいへん悪い中、また、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。前回の会議を踏まえながら、色々なご意見を提案していただきまして、非常にありがたく思っております。10月28日の第2回会議では、チームとしての提案をしていただきますので、引き続きご協力をお願いいたします。それでは、今日の会議は終了とさせていただきます。ありがとうございました。